

令和3年度寿楽荘事業計画・収支予算(抜粋)

I 基本方針

新型コロナウイルス感染症の収束状況が全てとなりますが、現時点で明るい材料は非常に少ないと言えます。何とか感染者もなく現時点まで運営して行くことが出来たので、収束まで施設職員一丸となり予防活動に努めていきたい。
 昨年度の不適切な介護サービスについては業務改善計画に則った立て直しが急務であり、町の指導・助言をうけながら改善を目指します。事の起こった背景には新型コロナウイルス感染症以外に職員不足による現場職員のストレスや不安感もあり、まずは外国人を含む職員の雇用と業務の効率化を促進させたい。
 介護報酬改定は+0.70%とされていますが国が初めてインセンティブにシフトした報酬改定であり、全ての職員の理解と協力が得られないと簡単に減収となる厳しい改定と認識しています。
 コロナウイルス・人員不足・報酬改定と課題は山積していますが、寿楽荘は立ち止まることはできないので多職種連携で施設の体制整備につとめ、利用者にも職員にも安心と安定を提供できる運営を目指します。

1 重点目標

- (ア) 業務改善計画に基づく介護サービスの適正化に努めます。
- (イ) 感染症や災害への対応力強化
 感染症・災害時対策としてBCPの作成・見直しおよび委員会による訓練(シミュレーション)を計画します。
- (ウ) ICTを活用した研修への参加・受講により認知症対応や人権擁護、ADLの維持向上など職員の資質向上に取り組みます。
- (エ) 自立支援・重度化防止の取組の推進
 介護保険制度の目的に沿って、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を目指します。
- (オ) 介護人材の確保・介護現場の革新
 若年層の雇用促進と再雇用制度の充実および外国人人材の確保に努めます。
 労働環境の整備として衛生委員会の機能を強化し労働状況の適正化に努めます。
- (カ) リスクマネジメントの強化
 国より示される書式にあわせ事故報告書の整備を行いながら、リスクマネジメント担当者を配置して施設内にある危険因子への対策を講じます。
- (キ) 創立時よりの理念(理想)、目標の周知と再認識
【愛情、人の和、信頼関係の中での慈悲を理想に利用者自身が主体となって生活をエンジョイできる施設を目指していきます。】これら理念と目標の周知・再認識に努めます。
- (ク) 前年度の大幅な減収および今年度の減収見込みに応じた老朽化設備の更新と現場職員の負担軽減・業務省力化対策として見守り機器等の計画的な見直し・整備を図ります。

2 運営管理計画

- 1.新規購入部門
 - ①厳しい財政状況の中で著しく老朽化が進んでいるボイラー設備の更新を計画し、利用者処遇に直結するベットの更新、また、厨房機器の更新等を行っていきます。
 - ②感染症対策物品等の備蓄増強。
 - ③その他随時(必要な場合のみ)
- 2.経費対策部門
 - ①暖房用燃料費、電気使用量の削減
 - ②大型加湿器使用に向けた研修会の実施。
 - ③ゴミの削減、出さないための取り組み。
- 3.基本的管理部門(継続部門)
 - ①消防計画・震災計画・感染症等事業継続計画の周知徹底、防災機器の管理強化。
 - ②利用者預り金「保管・整理・取り扱い」の的確な把握。
【印鑑取扱者:小峰沙織・通帳取扱者:八木茜】
 - ③マイナンバー規程に従った取り扱い方法の厳格化。
 - ④諸規程の整備及び備品管理の徹底。
 - ⑤施設内外の清掃、除草、花木の剪定の徹底。

※ 詳細は事業計画書をご一読ください。

資金収支計算書(当初予算)		
	勘定科目	寿楽荘会計
事業活動	事業活動収入計①	795,456,000
	事業活動支出計②	794,703,000
	事業活動資金収支差額③(①-②)	753,000
施設整備	施設整備等収入計④	0
	施設整備等支出計⑤	11,089,000
	施設整備等資金収支差額⑥(④-⑤)	-11,089,000
その他の活動	その他の活動による収入計⑦	12,416,000
	その他の活動による支出計⑧	2,000,000
	その他の活動資金収支差額⑨(⑦-⑧)	10,416,000
	予備費支出⑩	80,000
	当期資金収支差額合計⑪(③+⑥+⑨-⑩)	0
	前期末支払資金残高⑫	391,494,132
	当期末支払資金残高⑬(⑪+⑫)	391,494,132